

フルノの歩み、そしてこれから

古野電気株式会社

代表取締役社長
古野幸男

- 1. 会社概要**
- 2. フルノの歩み**
- 3. 今後の展開**

1. 会社概要

古野電気は、魚群探知機や船舶用レーダーなどをグローバルに提供する船舶用電子機器の総合メーカーです。

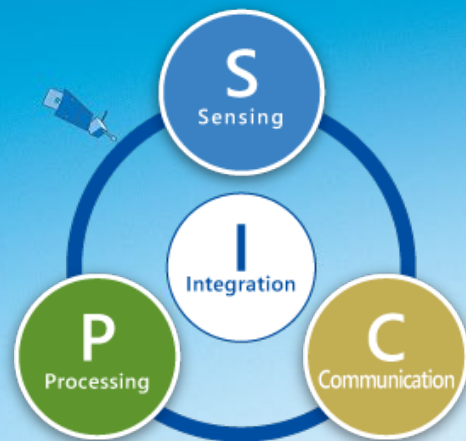
2019年2月28日現在



社名	古野電気株式会社
本社所在地	兵庫県西宮市
設立	1951年（昭和26年）
事業内容	舶用電子機器および産業用電子機器などの製造・販売
資本金	7,534 百万円
従業員（連結）	2,957 名
売上高（連結）	82,108 百万円
代表者	古野 幸男
上場取引所	東京証券取引所市場第一部 6814)



“みえないものをみる”



障害物を把握する

レーダー

VDR(航海
情報記録装置)

魚の大きさを測る

魚群探知機・ソナー

海底の状況を見る

海底地形探査装置

体液の成分を見る

生化学自動
分析装置

超音波骨密度
測定装置

骨の状態を見る

正確な位置・距離を測る

GPS プロッタ

AIS
(船舶自動識別装置)

衛星通信装置

雨雲の状況・雨量を測る

気象観測
システム

ネットワークに接続する

無線LANシステム

地盤の偏移を見る

地盤変位
観測システム

GPS(GNSS)
基準周波数発生器

GPS(GNSS)
受信機

ETC2.0/
ETC車載器

情報を読み取る

船用事業



商船向け

レーダー、ECDIS、VDR、
衛星通信装置、無線機器、
船速計



漁業向け

ソナー、レーダー、魚群探知機、
潮流計、無線機器



小型商品 /
その他

レーダー、魚群探知機、
オートパイロット、GPSプロッタ

産業用・その他事業



ヘルスケア

生化学自動分析装置、
超音波骨密度測定装置



通信・GNSS /
その他

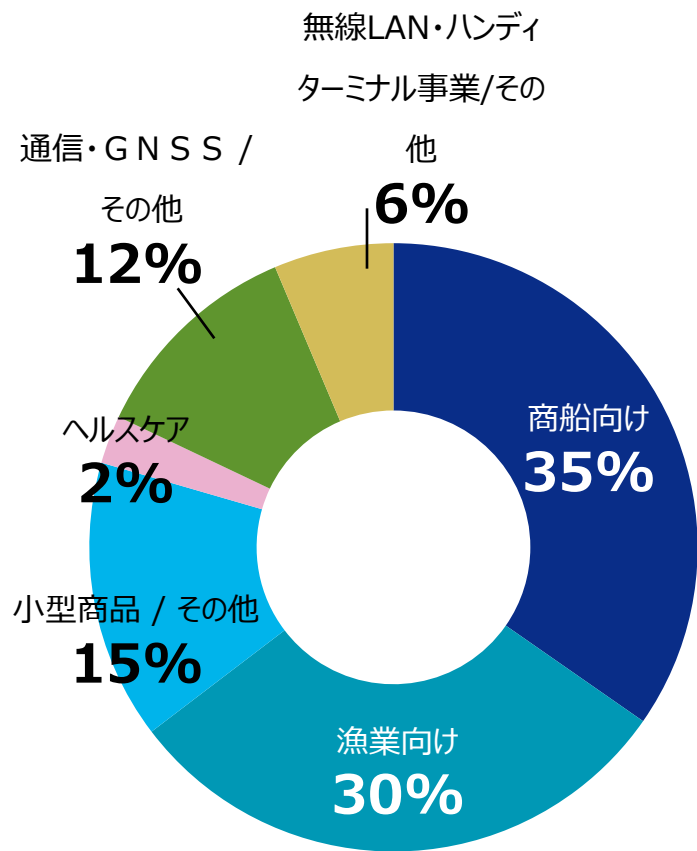
GPS(GNSS)チップ・モジュール、
ETC2.0/ETC車載器、
DSRC路側アンテナ



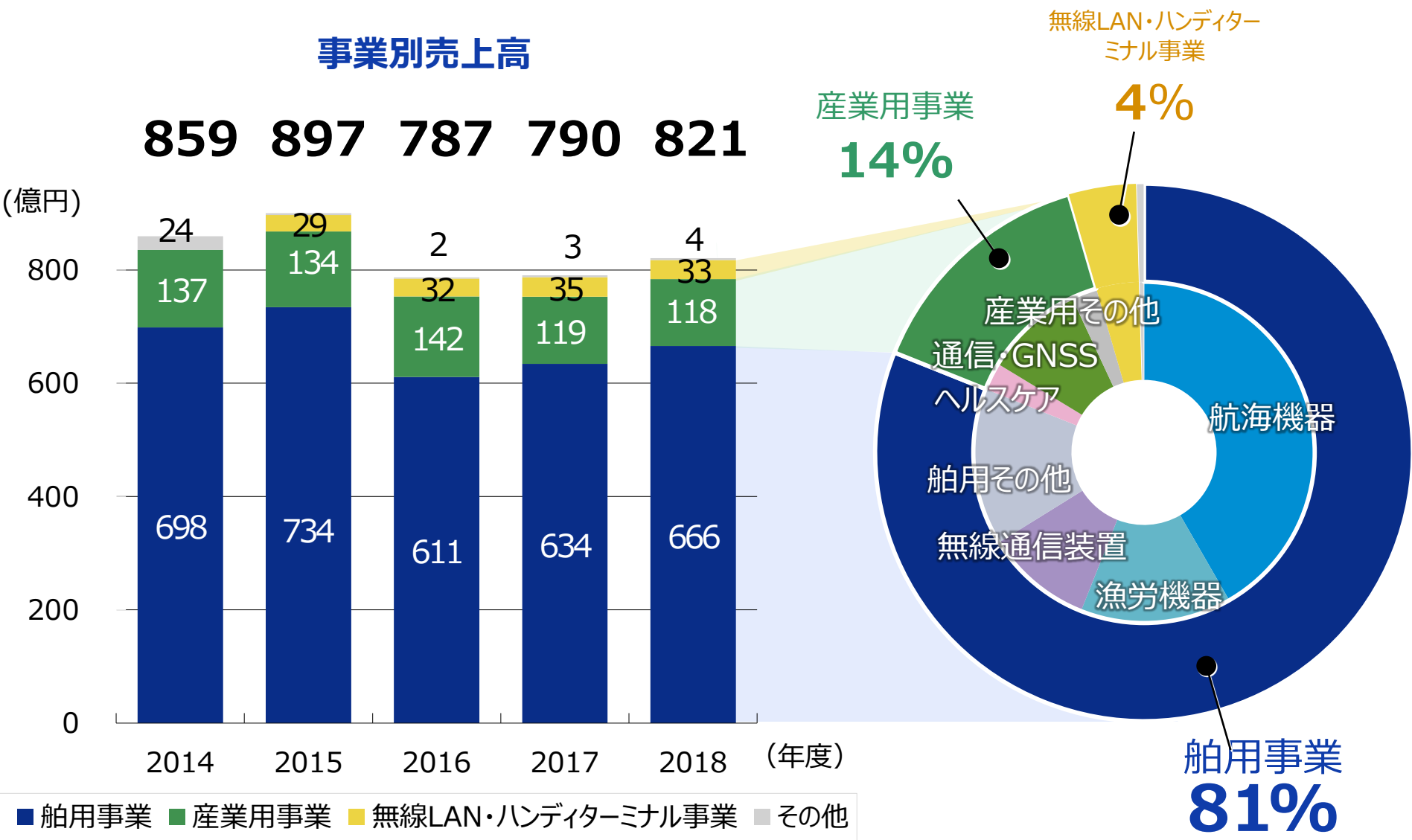
無線LAN・ハンディターミナ /
その他

無線LANアクセスポイント、
無線ハンディターミナル、
電磁環境試験サービス

市場別売上高構成比



事業別売上高



2019年2月28日現在

グローバル拠点と地域別の売上

FURUNO

国内子会社 8社
海外子会社 30社
販売拠点 83カ国

※2019年3月1日現在

欧州

アジア

日本

北米

地域別売上高

(億円)

1,000

800

600

400

200

0

2014

2015

2016

2017

2018(年度)

日本

北米

欧州

アジア

その他

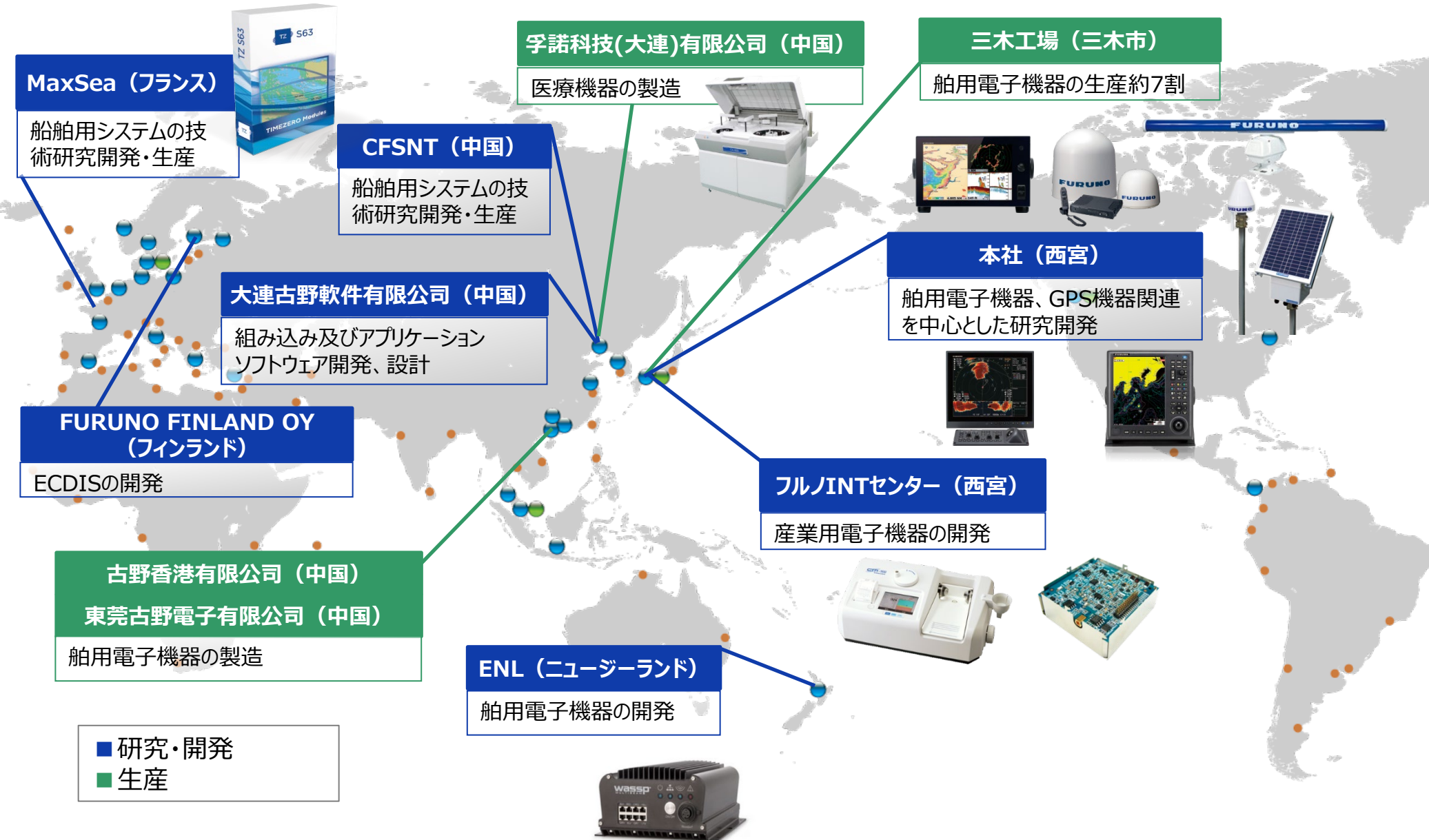
海外 61%

日本 39%

● 子会社・駐在員事務所

● サービスセンター

● 主要代理店



2. フルノの歩み

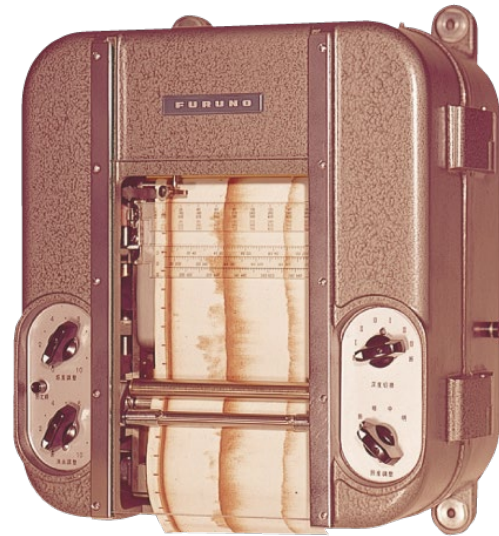
創業、そして魚群探知機を実用化

- 1938年 長崎県口之津町（現・南島原市）に「古野電気商会」を創業
- 1948年 世界初「魚群探知機」の実用化に成功
- 1964年 本社を兵庫県西宮市に移転

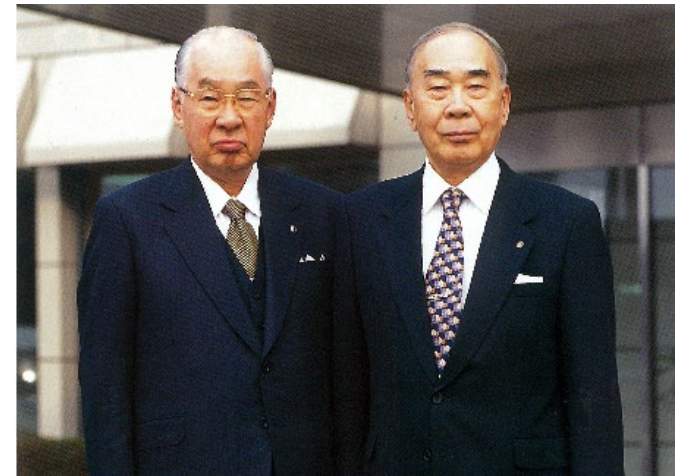
世界の漁法を変える礎となる



古野電気工業所



初期の魚群探知機

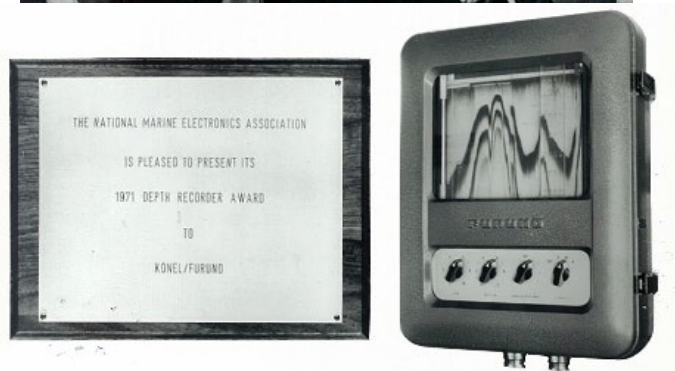


創業者の二人

世界で認められる

1972年 NMEA（全米船用電子機器協会）最優秀メーカー賞受賞（魚群探知機部門）

1977年 レーダー部門で最優秀メーカー賞受賞
以降、毎年欠かすことなく様々な部門で受賞



NMEA最優秀メーカー賞受賞



世界の“FURUNO”へ

1974年 ノルウェーに子会社を設立。

1978年 アメリカに子会社を設立。

1979年 イギリスに子会社を設立。以降、各国に拠点を設立



1974年 フルノノルウェー



1979年 フルノUK



1978年 フルノUSA

船用電子機器の総合メーカーとして飛躍

漁船で培った技術を基に、商船向け、プレジャーボート向け製品を開発。
船舶用電子機器の総合メーカーとして確固たる地位・ブランドを築く。



産業分野への進出

独自の超音波技術、電波技術などを活かし、医療機器やGPS機器、無線LAN機器などを手掛け、産業用事業へ展開。



ヘルスケア



通信・GNSSソリューション



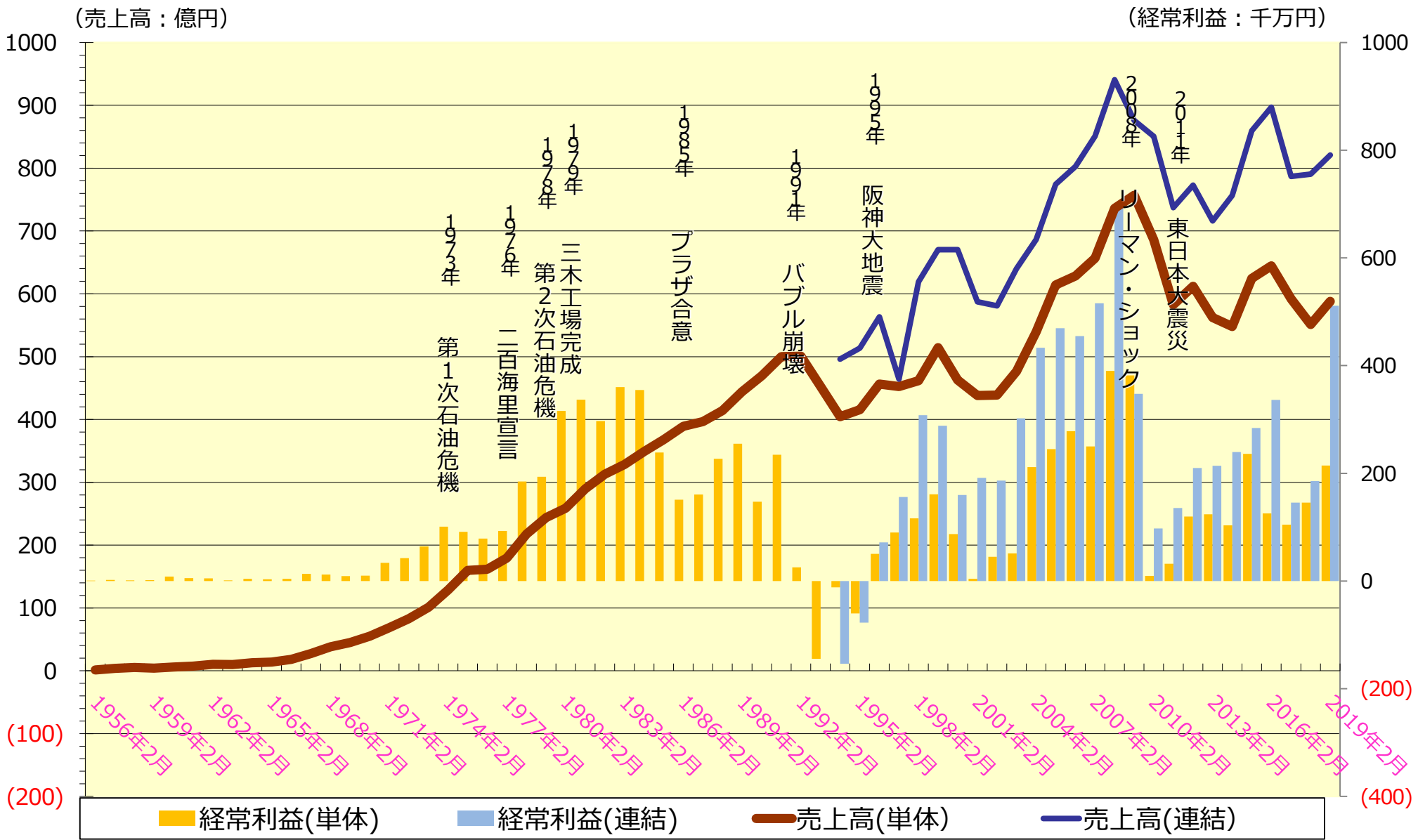
防災・監視ソリューション



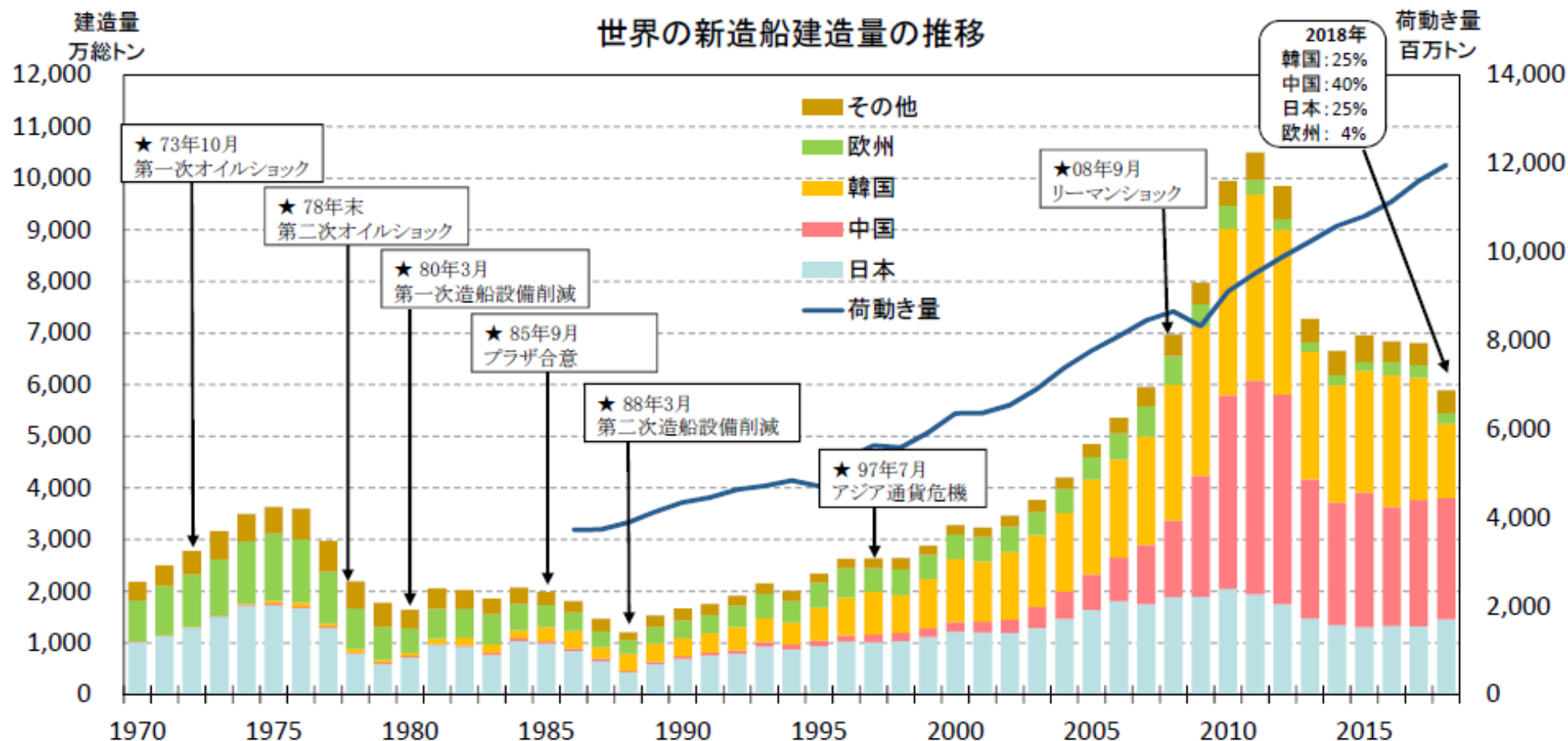
無線LANシステム
EMC・環境試験サービス



これまでの業績推移



- 世界の海上荷動き量は、リーマンショック(2008年秋)の翌年に、前年比で減少したものの、**基本的には世界経済成長率と連動して増加**。
- 世界の**新造船受注量がリーマンショック以降に激減**したため、建造(竣工)量はリーマンショック前の受注船がほぼ竣工した2011年をピークに大きく落ち込んだ。



新しい価値を
生み出すことにより、
社会の役に立つ

最良の
モノをつくる

時代の変化に
柔軟に対応する

お客さま
第一

独創的
である

3. 今後の展開

創立当初からの価値観（企業理念）を受け継ぎながら、
2030年までの目指す姿に、全世界が取り組むSDGsの考え方を取り入れる

FURUNO GLOBAL VISION NAVINEXT 2030

事業ビジョン

安全安心・**快適**、
人と環境に優しい社会・航海の実現

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



多様な立場の人たちと対話しながら、
新しい価値を「**共**」に「**創**」る



商船三井と、AR（拡張現実）技術を活用した
大型船舶向け航海用操船支援システムを共同開発



他船との衝突！
目視による限界！



航行に必要な情報を表示することで、安全運航・効率航行に貢献！
将来の自律航行船に実現に向けた、更なる革新を目指す

稚魚乱獲の防止や水産資源の持続に向けて、
資源管理型漁業への転換

水産資源の枯渇！



魚の種類や大きさを判別する技術により、持続可能な漁業を実現
豊かな海を守りながら、人々の食生活を支える

安全安心・快適なインフラ社会の実現

正確性、効率性の要求！
安全（セキュリティ）の確保！



車両の自動認識やIoT技術で、入退や誘導など管理業務を自動化
利便性向上と省人化によるコスト削減に貢献
車載IoTで、正確な位置情報を提供



共 創

ともに力を合わせ、“新しい当たり前”をつくる

FURUNO